

法改正案に反対・慎重論

「病氣と車」共存探る

てんかん学会と協会がシンポ

学術団体の日本てんかん学会と社会的理解の促進を目指す日本てんかん協会は11日、東京都内で、「事故をなくしたいー病氣や障害と自動車社会の共存をめざしてー」と題した緊急シンポジウムを開いた。発作を伴う病氣に関連し、悪質運転や運転免許の不正取得の罰則を強化する法案が国会に提出されたことを受けて開催。二つの法案への反対意見や慎重論に加え、公共交通の整備など、患者と障害がある人を社会全体で支援する仕組みづくりを求める声が出された。

(山崎貴徳)

その研究開発中の運転支援技術の説明もあった。同協会の鶴井啓司(たづま)会長は「どんな立場でも

交通面支援求める声も

事故防止と病氣や障害がある人の社会参加の両立を模索するの狙い。患者や障害者団体、報道関係者ら約100人が参加した。

鹿沼6児童死亡事故などを受け、政府は今年国会で、発作を伴う病氣の影響による死亡事故を15年以下の懲役とするなど悪質運転を厳罰化する新法案と、運転免許取得時に病状を虚偽申告した場合の罰則新設を柱とする道交法改正案の成立を目指している。

同学会の兼子直理(かねこ なおみ)理事長は冒頭のあいさつで、「果たして厳罰化



てんかん患者らの立場から法改正案や支援策について議論を深めた緊急シンポジウム＝11日午後、東京都千代田区

の大槻泰介(おおい たいすけ)さん(29)は「患者が正確な病状申告をしなくなり、治療もできなくなる」と両法案を批判。「病氣の申告が(患者の)支援に結びつく仕組みが必要だ」と主張した。

埼玉県上尾市、今野(いまの)こずえさん(29)は患者の立場から「都心部と地方では交通事情がまったく違ふ」とし、通院や実生活を送る上で公共交通の整備や交通費支援が必要だと強調。認知症の専門医や弁護士、新聞記者らもパネリストとして参加し、両法案に対し「障害者や弱者を差別し排除する制度改正だ」との意見や、危険を回避

長は「どんな立場でも鹿沼のような悲惨な事故をなくしたい思いは共通する。病氣や障害がある人が運転免許を取らなくても不便がなく、社会参加で不利益を受けない環境整備が解決策だ」と訴えた。同協会は両法案の慎重審議を求める署名活動を行っており、近く国会に提出する予定だ。